



歴史のドアを開けよう

Natural History
第39回

いしかり博物誌

知津狩川の源流をさがせ！



▲知津狩川は、石狩市と厚田村の境界を流れ、石狩川河口部に注いでいます。源流は阿蘇岩山中腹にありそうです。

大 河の水も最初是一滴から。石狩川の源流は大雪山系のどこなのか、いまだに議論が続いているようですが、それでは石狩市内に源流を持つ川はあるのでしょうか。

石狩市北辺、厚田村との境界線上を流れる「知津狩川」は、石狩市最北端の阿蘇岩山中腹から五の沢、高岡の水田地帯を流れ、石狩川の河口近くに注ぐ川です（左図）。全長およそ十数キロメートル。小さい川ですが、四十八市町村を通り抜けてくる石狩川よりも、こちらの方が「石狩の川」という感じがしませんか？

地形図をよく見ると、どうやら市内に源流がありそうです。

知津狩川の最初の一滴はどこから？
その答を求めて上流部に入ってみました。



▲高岡の水田地帯を流れる知津狩川中流部。左上に見えるのは阿蘇岩山。

川 の流れは田畑の広がる中流部までは道路沿いですが、上流部は、けもの道すらない沢筋をたどらなければなりません。

人の痕跡はほとんど無く、あるのはシカの足跡くらい。ときにひざまで水につき、ときに背丈より高いさやぶをかき分けて行くため、わずか十メートル進むのにも何分もかかってしまいます。

流水に削られた川床やがけには、ところどころ硬い泥岩が露出してます。

これは厚田村の望来海岸（もちきり）の地層と同じもので、今からおおよそ七百万〜八百万年前の海の地層です。岩のすき間から石油がにじみ出ている所もあります。



▶川の流れの向こうには砂防ダム。その上流側には沼地が広がっていました。今回の源流調査はここで断念。

や がて前方から水の流れ落ちる音がしてきました。滝かと思って進んでみると、砂防ダム。けつこう古そうな、地形図にも載っていない忘れられたダムでした。上流側はすでに土砂で完全に埋まり、長靴がズボズボ沈む沼地状態。しかたなく回すことにしました。

尾根に上がってルートを探しているそのとき。上流のやぶの中から「グオオオオオ」という声（？）が。続いてガサガサ、と何かが動く音。犬？ シカ？ ほかの人間がいるような形跡はなかったし…。

とりあえず、あわてて退散しました。知津狩川最初の一滴は再アタックまでお預けです。

(志賀健司)